

その他の業務：院内感染対策室

<特色と概要>

感染対策に関する院内の組織は、院内感染対策委員会（ICC）、院内感染対策チーム（ICT）、院内感染対策ワーキンググループ（感染WG）から成り立っている。2018年からは、薬剤に関する業務に関してICTから独立した抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を発足した。院内感染対策室では、ICTとASTが協同し、感染症から患者やご家族・来院者、スタッフなど病院内のすべての人を守るために組織横断的な活動を行い、病院内の感染対策に努めている。感染症は施設を超え地域全体に広がる可能性がある。泉州感染防止ネットワークに参画し近隣の医療機関とも連携しながら、地域ぐるみの感染対策を推進していく必要がある。当院は、泉州南部地域では数少ない感染対策向上加算1取得施設であるため、感染管理加算の連携施設だけでなく、長期入院療養施設や介護に携わる職員などに向けても指導を行い、泉州南部地域の感染対策の向上に努めている。

<実績>

2024年度 院内感染対策室の活動と担当者

グループ	細目	担当者
サーベイランス	BSI、SSI、VAE、UTI、症候（発熱患者）、針刺し、粘膜汚染	リンクスタッフ 大村 山内 藤原
環境ラウンド	感染の視点から各病棟の環境を調査	リンクスタッフ ICTメンバー
医療材料	新規医療材料の検討	リンクスタッフ ICTメンバー
教育	職員に対する教育活動 ・院内感染対策研修会 ・e-learning研修 ・リンクスタッフ活動報告会 ・手洗い検査 ・手指消毒剤使用量調査 ・手指衛生直接観察 ・オーデットの実施 （末梢カテーテル、CVカテーテル、尿道カテーテル、個人防護具について）	リンクスタッフ ICTメンバー
清掃関係	清掃ラウンド	山内
広報	The院内感染対策News 発行	山内 藤原
耐性菌、抗菌薬（ASTラウンド）	抗生剤適正使用チェック 医師への指導 サーベイランス 感染症レポート作成	ASTメンバー

◆教育

2024年5月22日 集合研修 2024年6月3日～2024年12月1日 e-learningにて開催 ・バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）アウトブレイク対応 ・VRE発生させないためのバンコマイシン（VCM）の適正使用の推進 出席率：93.3%
2024年12月2日～ e-learningにて開催 ・今だからこそ『標準予防策』について見直してみよう！！ ～個人防護具を中心に～ ・ビーフリード®投与下でのBacillus cereus感染症について 出席率：86.5% 2025.5.7現在

◆感染管理加算

【相互査察】

監査施設・査察病院	実施日
監査病院：市立貝塚病院	11月21日
査察施設：府中病院査察	6月18日

【合同カンファレンス】

テーマ	開催日	担当病院
カテーテル関連尿路感染対策について考える	6月26日	浪切ホール
新興感染症を想定した訓練「個人防護具の着脱」 合同カンファレンス「内服抗菌薬の適正使用について」	9月26日	浪切ホール
感染情報レポートについて ～そのレポート、活用できていますか～	11月20日	浪切ホール
EXPO2025 大阪・関西万博に向けて ～輸入感染症対応って何をすれば？Let's think！！～	2月27日	浪切ホール

◆結核関係

1)結核患者治療成績評価検討会（第1,2,3,4四半期）
管内の塗抹陽性結核患者の治療成績の検討及び助言
6月10日（月）、9月9日（月）、12月9日（月）、3月10日（月）
14時30分～17時 場所：大阪府泉佐野保健所3階
倭正也

◆厚生労働省研究班 厚生労働行政推進調査事業 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「一類感染症等の患者発生時に備えた臨床対応及び行政との連携体制の構築のための研究」

2024年度一類感染症等集中治療アドバンスワークショップ

- 1)2024年6月2日りんくう総合医療センターにて開催：倭正也、深川敬子、山内真澄、金口優生、井上覚、藤原愛弓
- 2)2024年6月9日りんくう総合医療センターにて開催：倭正也、深川敬子、山内真澄、中平大志、井上覚、藤原愛弓
- 3)2024年11月2日（ECMO特別コース）りんくう総合医療センターにて開催：倭正也、深川敬子、山内真澄、中谷暁洋、吉田光海、井上覚

2024年度一類感染症セミナー

- 1)2024年12月14日 国立国際医療センター国際感染症センターにて開催：倭正也、山内真澄

<今年度の反省と来年度への抱負>

COVID-19の対応については、2023年5月8日からの5類移行に伴い、通常の感染症と同様の対応となるため、検討の場がICTに移行となった。厚生労働省から発出された文書を元にCOVID-19の感染対策を検討し、ICCの承認を得て、院内感染対策マニュアルにCOVID-19の項目を追加した。移行後に変更となった感染対策の周知を念頭に第1回目の院内感染対策研修会では「COVID-19 5類移行に伴う当院での感染対策について」をテーマに行った。今年度も、感染対策向上加算3を取得した3施設、外来感染対策向上加算取得した16施設と連携を行った。加算連携施設に対して当院主催の合同カンファレンスでは、2023年5月8日からのCOVID-19の5類移行に伴い、各医療機関で感染対策の変更が求められた事を受けて、5類移行の各施設での対応をテーマに選択、後半は、診療報酬内で新興感染症の発生等想定した訓練を年1回は開催するように定められている事から、大阪・関西万博時に注意すべき感染症として髄膜炎菌感染症をテーマとしたCase Studyを題材として各医療機

関での初期対応についてのシミュレーションを行った。加算3の3施設と希望があった外来感染対策向上加算2施設に対して、感染防止対策に関するラウンドを実施し指導を行った。CRBSIサーベイランスを実施しているが、2024年上半期のデータでは、JHAISの50%タイルと比べると使用比は差がなかったが、感染率は、一般病棟で3.88/1000 device-days (1000 器具延べ使用日数)とJHAISの1.0/1000 device-daysと比べると約4.0倍高い状況であった。三方活栓から側注する際の手指衛生、マキシマルバリアプリコーション(MBP)の認識の違いにより患者全体を覆う対応をしていなかった事が原因として考えられた。リンクスタッフに手指衛生の清潔操作前タイミングの再教育・MBPの概念について対策ニュースで広報を行った。CVCラインセットに患者を覆うオリーブがセットされていないため、2024年7月に患者用のオリーブをセット化した。2023年10月から始まったVREのアウトブレイクに対して、該当部署の手指衛生直接観察を含む直接指導やリスクが高い培養検査の実施等を行ったが、終息せず泉佐野保健所やO-FIT、FETP、大阪大学感染制御部の支援を受けながら終息に向けて対応中である。手指衛生の回数について、1患者あたりの目標回数を20と定めているが、中央部門では目標回数を上回る回数で達成した。一般病棟において、目標の20回を達成する病棟が、リンクスタッフの活動により認められるようになった。リンクスタッフに手指衛生直接観察を行ってもらったが、患者接触前63% (前年67%)、患者接触後68% (前年74%)であった。今年度もリンクスタッフの活動の一環である活動内容の実践報告会を開催し、活動の内容を共有した。薬局内クリーンタイムの実施においては、引き続き啓発活動を行っているため、新入局スタッフが入っても質を落とすことなく実施できるよう感染チームが薬剤部門スタッフ全員に周知活動を行い続けている。臨床検査科では、昨年度に引き続き、複数病棟におけるVREアウトブレイクに対して2週間ごとの監視培養を実施した。円滑に検査を実施できるよう、培地やその他試薬の在庫を十分に確保し、また院内感染対策室と密な連携を図り、迅速な情報共有を心掛けた。また、黄色ブドウ球菌やCandida属による血流感染症の場合に、合併症検索や治療期間に関するコメントのカルテ記載を継続して実施しており、早期に治療が開始され臨床に貢献できていると考える。リハビリテーション部門では、2024年度も前年に引き続きCOVID-19患者への介入を実施した。COVID-19や感染症による隔離が必要となる患者は、廃用を呈しやすく、経路別感染対策をICTや病棟と情報を共有した上で、積極的にリ

ハビリテーションを実施した。また、刻々変化する感染情報については、災害で使用するクロノロジーを用いて、情報管理を行った。放射線部門では、環境接触後の清拭・アルコール消毒に力を入れて活動を行った。個人が個人持ちのアルコール消毒液を使用することで、全体のアルコール使用量は30%向上したが、環境接触後のアルコール遵守率が低いので、引き続き啓発を行いたい。臨床工学部門では、「適切なタイミングで手指消毒ができる」をテーマに活動した。5つのタイミングの理解度向上と手指衛生の徹底を目指し、理解度は82.7%、遵守率は54.4%となり、一定の成果はあったものの、目標達成には至らなかった。

2024年4月にVRE感染対策プロジェクトを発足した。リンクスタッフだけでなく、院内全体での危機意識の共有、感染症対応力の底上げを目指し、アウトブレイクの終息に向けてプロジェクトメンバーと協同しながら活動を行っていききたい。ICT/ASTメンバーによる薬剤部門スタッフへの積極的な啓発活動を実施し、環境整備の質を上げることを目標とする。海外からの旅行客が増加していることに加え、大阪万博の開催が控えているため、輸入感染症に対しての対応が行えるようにしたいと考える。AST活動として、感染対策向上加算3の施設からの抗菌薬適正使用について、加算3施設が相談しやすい環境を整えていきたい。来年度は大阪・関西万博が開催され、今まで以上に海外渡航歴・入院歴のある患者が受診することが想定される。薬剤耐性菌用のスクリーニング培地を充実させ、薬剤耐性菌が検出された際には迅速に院内感染対策室と情報共有し、院内拡大を防げるように努めたい。リハビリテーション部門では、手指衛生の遵守率の向上をはかるため、セラピスト毎に毎月、アルコール使用量をグラフ化し、リハビリ室内に掲示することを始めた。それを用いた手指衛生の教育をより徹底し、セラピストを介した感染の伝播が行われないように徹底していく。大阪・関西万博で世界中から多くの人が集まるため、放射線部門でも様々な感染症が持ち込まれることを意識し、感染対策を行っていく。臨床工学部門では、大きな成果を焦らず、地道な活動を通じて感染対策の基礎を固め、確実に遵守率向上を目標にする。臨床工学技士として、患者と医療従事者の安全を守るため、院内感染対策に積極的に貢献し、他職種との連携を密にし、チーム医療の一員として、より質の高い感染対策を提供できるよう努める。